

令和5年度 学校評価書

学校名（東温市立北吉井小学校）

令和6年2月

- 1 学校の教育目標 『元気で 一生懸命な やさしい北吉井っ子の育成（「ふるさとを愛し持続可能な社会を創る力」「幸せや生きがいを感じながら生きる力」の育成）』
- 2 経営の基本方針 子どもの成長 安全・安心を中核に据え 「家庭・地域との連携・協働」を推進しながら（1）元気な子を育てる(自律)（2）一生懸命な子を育てる(勤勉)（3）やさしい子を育てる(協力)

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員より
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	小さな変化やトラブルを見逃さず、受容的な態度で児童に対応し、組織的に未然防止及び課題の早期発見・早期解決に努めている。	3.9	3.6	3.2	<p>○ 保護者評価については、昨年度の評価と同等であった。特に、「いじめ・不登校等への対応」については、組織的対応による早期発見、解決を心掛けている。保護者からも「学校からの連絡により子供の様子が把握できている」「担任が児童一人一人の個性を認めている」という肯定的なコメントが寄せられており、きめ細やかな対応に努めていることに一定の理解が得られていることがうかがえる。</p> <p>● 「いじめ・不登校等への対応」「相談体制の充実」について教職員評価と児童評価が下降した。不登校傾向や教室に入りづらい状況にある児童に対して、個に応じた居場所の確保や教職員配置にできる限り努めているものの、児童数の増加に伴って対応が困難になっている。不登校対応については、チームが一丸となって柔軟に対応する体制を整える必要がある。</p>	<p>【総評】教職員室の雰囲気が良いとの評判を聞いた。チームワークが良い学校は、子供たちにとっても居心地の良い学校だと言える。子供たちのためになることは、保護者も地域も協力すべきである。教員が疲弊することなく、子供たちに接する時間や教材研究の時間を増やすよう協力したい。</p> <p>【生徒指導】学校は、毎年いじめ防止基本方針を見直し、ホームページに掲載している。教職員評価の高さからもいじめを許さない思いが感じられる。挨拶の評価について、日常生活で挨拶する場面が多様にある。保護者の評価が低いのは、質問の曖昧さから評価しづらいのではないかとと思われるため、検討してはどうか。</p>
	基本的生活習慣の定着	心を込めた挨拶や返事、会釈の定着を図っている。	3.3	3.4	3.1		
	相談体制の充実	一人一人の児童の変化を見逃さず、児童の情報を共有し、児童理解に基づく教育相談や保護者参加のケース会議等をチームで対応している。	3.6	3.4	3.3		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	一人一人に出番がある学習や活動の場を工夫し、タブレットアプリを活用するなどして、きめ細かな指導を行っている。	3.3	3.4	3.3	<p>○ 昨年度の課題であった「学び合い・振り返りのある学習」について教職員評価が大きく上昇した。校長のリーダーシップの下、問い掛けの学習課題設定と、考えや分からないことを聞き合ったり、理由を聴きながら考えを練り合ったりする「いわがらタイム」の実践に努めた。特に、日々の授業で「いわがらタイム」をどの場面でもどのような方法で活用すると効果的か考察を深め日々の教育実践を積み重ねた。その結果、「いわがらタイム」がふだんの授業で定着し、授業中の児童の主体的な発言が認められるようになった。</p> <p>● 学習におけるICTの利活用は大幅に進んでいるものの通信環境の整備等、ハード面は改善中である。</p>	<p>【確かな学力】外部講師として実際に授業をした。学校の丁寧な学習指導と家庭の子供に寄り添ったサポートが両立しているため、北吉井小学校の児童は、学びに向かう意欲が高いと感じた。</p>
	家庭学習の充実	宿題や自主学習の内容や取り組み方について全校の共通理解の基、保護者との協力等により、家庭学習の習慣が定着するよう努めている。	3.3	3.4	3.1		
	学び合い・振り返りのある学習	課題を持ち、自分の考えを伝えたり、分からないことを尋ねたりしながら学び合い・振り返りのある学習を行うように努めている。	3.7	3.5	3.2		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間を中心に、全教育活動を通して思いやり・感謝の心を育てる道徳教育の充実に努めている。	3.2	3.7	3.4	<p>○ 家庭と連携した「元気モリモリカード」や保健だよりの啓発について、保護者の評価が高い。また、行動制限が緩和され、積極的に体験活動に取り組むことができたことを評価する意見も多い。「ふるさとを愛し持続可能な社会を創る力」の育成に努めていることを学校便りや学校ホームページを活用して積極的に発信している。保護者からは、「地域と連携して学校だけでは学べない経験を重ねていて良い」といった意見が挙がっている。今後も地域と連携した体験活動を継続し、児童の地域に対する愛着形成を図りたい。</p> <p>● 教職員、児童、保護者評価は、全項目昨年度同様の高評価となっている。一方で、保護者からは異学年交流の機会が少ないことや公園での遊び方が気になるといった声も挙がっている。このような声を異年齢集団の活動や道徳科の中で扱い、生活場面と関連させることによって異学年交流や道徳教育の充実に努めたい。</p>	<p>【豊かな心、健やかな体】三者の評価が高い。児童評価が高いことは、子供を中心に据え、家庭や学校で愛情が注がれていることを示している。</p>
	仲間づくり・集団づくり	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めながら、仲間意識に支えられ、互いに協力のできる集団の育成に努めている。	3.6	3.7	3.5		
	健康づくり・体力づくり	家庭と連携し、「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けと健康・安全意識の向上に努めている。	3.2	3.5	3.4		
	体験活動の充実	自然体験・社会体験活動を充実させ、自立心の育成を図るために行事を工夫して行っている。	3.3	3.6	3.4		
特別支援教育	特別支援教育の充実	校内支援体制を整備し、専門家や校内スタッフの情報を参考に、一人一人のニーズに応じた支援を行っている。	3.6	3.3	3.2	<p>○ 通級指導教室の増設や東温市巡回相談における教職員研修、校内教育支援委員会等、校内支援体制が充実した。自校通級の良さである学級担任と通級指導担当者とのチーム支援に努めている。</p> <p>● 保護者の意見には「教職員の支援に対する意識の差」や「教職員の言葉遣い」「特別支援学級と交流学級との温度差」を指摘する声も挙がっている。今後、指導体制を見直し、研修したことを適切に反映するよう努め、「先生は、自分を大切に思っている」と実感できる児童の割合を増加させたい。</p>	<p>【特別支援教育】多様な人たちや組織との連携が重要と思われる。必要であれば、遠慮なく声を上げていただければ協力したい。また、関わり方の資質・技能を高めるためにも職員研修に取り組んでいただきたい。</p>
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して、登下校時の安全確保に努め、児童の安全への意識を高めるよう配慮している。	3.4	3.6	3.6	<p>○ 昨年度大きく評価が上昇した「安全・安心な教育環境の整備」については、本年度も昨年度と同等の評価を維持している。特に、「防災教育の充実」について教職員評価が0.2ポイント上昇した。これは、川内中学校で開催した避難訓練の研修を受けて避難訓練の考え方から見直した。令和6年能登半島地震を自分事と捉え、児童の命を守ることが最優先されるよう、今後も危機管理マニュアルの改善を図る。</p> <p>● 登下校の見守りについて、保護者から改善を望む声が上がっているが、学校の対応には限界があることやより多くの地域・保護者の参画が求められることを理解していただく必要がある。</p>	<p>【安全・安心な教育環境】地域の見守り活動に保護者が参加しやすい仕組みを考えたい。校門外は保護者や地域が見守る校区にしたい。</p>
	防災教育の充実	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	3.5	3.8	3.3		
	食の安全と食育の充実	給食の安全を確保すると共に、食育を推進している。	3.5	3.5	3.3		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとCSの推進	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされ、「地域とともにある学校」の実現に努めている。	4.0	3.6	3.4	<p>○ 本年度は、地域コーディネーターと地域連携教育担当教職員が連携し、地域資源や人材を生かした授業の展開と今後に生かすためのカリキュラムマネジメントに取り組んだ。その結果、地域の良さや課題を実感できる単元や地域素材の開発が大きく前進した。この成果を次年度以降も教職員の負担感なく継続することで「開かれた学校づくりとCSの推進」の実現を果たすことができると考える。</p> <p>○ 本年度、月1回の午後、松山聖陵高等学校教員養成コースの生徒が来校し、学習補助の場面を設定して交流した。児童が安心して活動する場や教員養成の一助、教職員の負担軽減等、双方にとって効果があった。</p>	<p>【特色ある学校づくり】教員評価が高い一方で保護者評価が低いのは、一定数の保護者がPTA活動に関わっていないことを示す。焦らず啓発を続け、あるべき姿を見いだしていただきたい。PTAがホームページを使って活動内容をうまく発信していることも他の学校にはない。</p>
	情報の共有化	児童の様子について積極的に学校の様子を伝えたり、学校便りやホームページ等で学校の情報を積極的に発信したりして情報の共有化に努めている。	4.0	3.4	3.4		
特色ある学校づくり	PTAの積極的な学校運営への参画	PTAの主体的な参画を通して、教育活動の充実や効率化などを推進している。	3.7	3.5	2.9	<p>○ PTAが主体となった「PTA学校支援事業」が2年目となり、本校の「特色ある学校づくり」として本年度より評価項目に位置付けた。自発的な活動になるよう保護者の意見を取り入れながら更に推進したい。</p>	<p>【施設・設備の充実】児童評価に着目するとICT活用の評価が高い。学校では積極的に活用できているのであろう。家庭でのトラブルに対応できるフロー図やマニュアルを示せるとうい。</p>
施設・設備の充実	ICTの有効活用	ICTを活用して、授業や校務の効率化を図っている。	3.3	3.8	3.3	<p>○ 東温市教育委員会の尽力によって新校舎の雨降り等、課題は大きく改善された。今後、学校は改善されたことを生かして転倒事故等の未然防止や適切な教室配置に努めたい。</p> <p>● タブレットの活用が進むにつれ、成果が表れるとともに課題も散見された。家庭で利用する場面で問い合わせが多いため、これらの課題を解決することが効率化につながると思う。</p>	
	施設・設備の安全管理	清掃活動や安全点検等において潜在的危険個所の早期発見と除去に努めている。	3.3	3.7	3.3		